



たにせ 谷瀬の吊り橋



玉置神社



熊野古道



意見交換会

## 2 | 9 - 12 本町のルーツ肌身で感じ、学ぶ 第35回青年道外研修団が母村訪問

新十津川町青年道外研修団（松井則親団長ら4人）が、奈良県十津川村を訪問し、村の青年団と交流を深めました。研修団員は、村青年団と一緒に世界遺産の熊野参詣道小辺路（熊野古道）を1キロにわたって散策したほか、玉置神社や水害慰霊碑、歴史民俗資料館を訪問し、村の歴史を学びました。また、村青年団との意見交換会では、青年団活動の近況を語り合いました。松井団長は「母村の歓迎にとても感動しました。今回の研修で築いたつながりを継続していきたいです。そして、研修で得たことを今後の青年活動に生かしていきたいです」と話していました。

## 2 | 9 剣士見守り39年 尚武館の歴史に幕

新十津川尚武会（白石昇会長）が尚武館で閉館式を行い、39年余りの歴史に幕が下ろされました。尚武館は昭和48年11月30日に完成。翌年2月9日には十津川剣道クラブなどを招いて開館式が行われ、以降、多くの剣士を輩出してきました。開館式から丸39年を迎えたこの日、更谷十津川村長や植田町長が見守る中、剣道クラブの18人と尚武会の24人が最後の稽古を行い、感謝と惜別の念を捧げました。





## 2 | 21 ごちそうずらり19品 バイキング給食に舌鼓

新十津川中学校でバイキング形式の給食が提供され、3年生66人がごちそうに舌鼓を打ちました。

この催しは、バイキングのマナーを身に付けることや、自分に必要な食事の量を知ることに加え、体育館に学年全員がそろって食べることで学級間の交流を深めることを目的としています。

生徒たちは、焼きそばやチキンナゲット、卵焼き、ケーキなど19種類のメニューから、思い思いの料理を取り皿に運んでいました。

山盛りのお皿を前に北川貴之くんは「3日前から眠れないくらい楽しみにしていました」と、笑みをこぼしていました。

## 2 | 17 冬の生活、がっちりサポート

新十津川消防団第1分団の団員18人が、独り暮らしの高齢者宅の除雪をボランティアで行いました。

この取組みは、地域に根差した消防団活動をと、毎年この時期に各分団が行っているものです。この日は、弥生区、青葉区、菊水区の5軒を対象に、玄関から道路までの通路とベランダの除雪を行いました。

このほか、2月10日には第3分団がみどり区の4軒を、11日には第2分団が花月区の2軒を除雪しました。第1分団、第5分団は対象世帯がありませんでした。



## 2 | 1 徳富ダム、いよいよ最終工程

徳富ダムの管理塔で西松・岩田地崎特定JVが湛水式たんすいを行い、試験湛水（一度水を溜めて、また抜き、ダムの安全性を確認する作業）が開始されました。

徳富ダムは平成14年に着工し、以来11年にわたって工事が続けられてきました。サイレンに合わせて水門が閉じられると、関係者から拍手が湧きあがりました。

ダムが満水（最大水深70メートル）になるのは5月中旬。試験期間は7月末までで、ダムの最終的な完成は来年4月となる予定です。

